



姉妹都市公式訪問団報告

深川国際交流協会 理事長 小滝 聡

8月7日から13日まで、河野深川市長を団長とする12名からなる公式訪問団は姉妹都市アボツフォード市を訪れました。私は深川国際交流協会の代表としてメンバーに加えていただきました。訪問団の現地での活動につきまして主として当協会に関連する事柄に焦点を当てて報告いたします。

スムーズに進んだ訪問活動

まず報告したいことは、私達は終始暖かい雰囲気ときめ細かい配慮のもとに歓迎され快適な6日間を過ごせたということです。この訪問団受け入れの中心になったのはアボツフォード市役所の総務部長トリッサ・ストロングさんでした。彼女とスタッフが献身的に準備され、我々が当初目的としていたアボツフォード市の現状を視察し多くの方々と接触する、そして深川を知ってもらうという成果は十分にあげられたと思います。

その成功の裏には二つの要因があったと思います。その第一は、98年の姉妹都市提携調印式に遡ります。ファーガソン市長を団長とする16人の訪問団が深川を訪れた時、彼らに対する当協会会員と深川市民の暖かいもてなしはまさに言葉では表現できないほどでした。特に、市民がボランティアで催した音江小学校体育館での歓迎お祭り広場や、小中高校での生徒達の暖かい歓迎は、カナダ側の人達の心に深く刻まれました。そのことが、今回の私達に対する歓迎につながったと思います。私は、多少カナダ人社会を知っておりますが、このきめの細さは意外な驚きでした。

第二の要因は、加日親善協会が費用を負担して、5月の米米フォーラム開催時に合わせて、アボツフォード市役所のトリッサ・ストロングさんを深川に派遣していただき、団員と事前打ち合わせを行い、我々の希望を取り込んだ日程の調整を行うことができたことです。このことを契機に姉妹都市関係の公式な連絡パイプがしっかりとつながったという印象を持ちました。

市民とのふれあい

訪問時期の設定はファーガソン市長のたつての希望で8月上旬に決まりました。それはアボツフォード市の二つの大きなイベントが開催されるからでした。バンクーバーに2時間遅れで到着した私

達は大慌てで車に分乗して「農業祭」の会場に向かいました。会場の入り口ではあの大きな体のファーガソン市長が待っていてくれました。市長同士の2年ぶりの再会でした。農業祭役員の方々が歓迎昼食会を準備してくれました。昼食後、大変広い会場をトラクターが牽引するワゴンに乗り各パビリオンを訪ねました。そこで、多くの市民と挨拶を交わすことができました。農業機械、作物、民芸品そして珍しい動物が展示され、市民が気軽に楽しんでいる姿を拝見できました。一番大きな建物の中に深川市を紹介するコーナーがあり、一同大変うれしくなりました。

その日の夕刻、市主催の歓迎夕食会が開催されました。そこには、98年に深川を訪ねた全員（ランディー・コマー氏は他州に転出）の顔がありました。また、新しく議員になった方も参加しておりました。

記念植樹除幕式

次の日（8日）公式訪問を記念して記念植樹がなされ、その木の前の記念プレート除幕式が行われました。我々団員は古式豊かなバグパイブ演奏者に先導され会場に入りました。そこで、両市長からのメッセージの後、除幕が行われ、その模様は次の日の新聞に大きく報道されました。

その日の夜は、加日親善協会の主催する夕食会がストロング部長の自宅で行われ、寿司をふくめた豪華な食事を楽しみました。

好印象の深川からの子ども達

私が強く関心を持っていたのは、なんといっても、協会の主催行事である青少年研修団がどうしているか、ということでした。9日の夜、マデレン・ハーディンさん（2年前家族で5ヶ月間深川に滞在）の庭でホストファミリー家族と合同の夕食会に加入することができました。引率の渡辺優当協会事務局長と武藤優子さんのリラックスした姿を見て、すぐこ

の研修団が大きな成果をあげていることがわかりました。

お世話役になっている、教育委員会の方からはお世辞ではなく大変なお褒めの言葉をいただきました。深川の子ども達からは帰りたくないの声が聞こえました。また、河野市長の「子ども達が帰りたくないと言っても、深川に帰してください、市長として困りますから」というユーモア溢れるスピーチは会場を沸かせました。また、団長の木根英由美さん（西高2年）のスピーチも立派でした。そして、英語を教えていただいたシャロン先生から一人一人に修了証が贈られました。

高校生の交換留学

訪問期間中、アボツフォードの教育委員会と高校生の交換について何度か話し合いを持ちました。出発前には深川市内3高校の校長先生と話し合い、高校生の短期留学に前向きであるとの印象を持っておりました。先方も積極的に、毎年、5人以内ぐらいで3ヶ月程度、ホームステイをしながら語学や文化を学ぶ機会を与えてあげよう、というのが骨子です。授業料は受け入れ側が負担、ホームステイの費用は双方とも無料、交通費は自己負担ということで進めましょう。一応、2年後からスタートできるように事務局レベル（アボツフォードは総務部、深川は企画部と当協会）で調整いたしましう、というものです。今後、協会の中で具体化に向けて議論を重ねたいと思います。

ハプニング編 ▶▶▶▶▶

12人の人が1週間も共にすると、いろいろなハプニングが起こるものです。その2、3を紹介します。

東出議長は南議員の命の恩人

到着日の出来事です。農業祭を見学している時、大きな農耕馬を見つけました。南議員は「昔取った杵柄」とばかりその場にいた持ち主の手助けを受けて馬に

またがりしました。2~3メートル離れて見ていた私は内心「もう年なのだからやめれば」と思っていました。ところが、南議員が降りようとした瞬間、事が起こりました。なんと、議員は馬のタテガミに足をひっかけて頭から落ちました。私は凍りました。次の瞬間、傍にいた東出議長がすばやく南議員の巨体を両腕で受け止めたのです。事無きを得ました。きっと二人の間には会派の違いを越えた親密な関係ができたことでしょう。

返礼夕食会に奇術師が出現

深川側の主催する返礼の夕食会が市内から10km程はなれた山あいのパーティ会場で行われました。双方の挨拶の後、宴に入りました。その余興の部で活躍したのが南議員でした。自ら奏でるBGM

(歌は著しく古い)に合わせて、各種の奇術を披露。会場は爆笑の渦につつまれました。

返礼夕食会に山男が

先住民族の言い伝えに大きな山男伝説があります。彼らの言語でサスカッチ(Sasquatch)と言われ、目撃証言やそれに関する著書もたくさんあり、研究をしている人もおります。パーティの途中、ストロングさんが突然「皆さん外に出てください」と呼びかけました。一同、何が起こったのか解らないままバルコニー風のところに出てみると、木の影に毛むくじらの大男がこちらを覗いているのです。少々、シャイな感じでなかなか近づく気配がありません。そのうちこちら側から呼びかけると少しずつ近づ

いて最後は皆と写真撮影をして終わりました。参加していた若い議員がサスカッチのぬいぐるみを着て我々を楽しませてくれたのです。カナダ人らしいユーモアでした。

小滝が表彰

最後にまたハプニングが起こりました。宴が終わろうとしていた時、加日親善協会のジョージ・タフ氏が突然立ち上がり、姉妹都市交流の発展に貢献したという理由で私を表彰するというので、その場で賞状が渡されました。大変光栄なことだと思いました。それと同時に、これは協会全体、また協力してくれている深川市民が受けるものと思いました。

■ ■ ■ 今回は、青少年海外派遣事業(カナダ)交流団員の交流を終えた感想と9月に開催された2000地球環境米米フォーラム in ぶかがわ(稲刈りフェスティバル)の感想が中心になります。 ■ ■ ■

【2000年度青少年海外派遣事業の概要】

2000年7月27日から8月11日の行程で、青少年海外派遣事業が実施されました。交流団員は10名の中学生・高校生と2名の引率者で構成され、カナダを訪問しました。

月日	主な研修内容	団員名	学校	学年
7/27	深川市出発~アボツフォード市到着	渡辺 真代	深川西高校	3年
7/28	英語の授業、マツクイ・レク・センター	木根芙由美	深川西高校	2年
7/29	ホストファミリーと過ごす	加藤 末希	深川西高校	1年
7/30	ソルト・スプリングへ	本間 文	深川西高校	1年
7/31	ソルト・スプリング見学	柏倉 加奈	深川東商高校	1年
8/1	ビクトリア見学	横山 由絵	深川東商高校	1年
8/2	英語の授業、マツクイ農場	川合 沙季	一巳中学校	3年
8/3	スタンレー公園水族館、グランビル・アイランド、バーナビ	柿嶋恵一郎	一巳中学校	2年
8/4	英語の授業、ロングハウス見学	亀上 春香	一巳中学校	1年
8/5~7	ホストファミリーと過ごす	島影 志保	深川中学校	1年
8/8	英語の授業、カルタス湖	引率指導者名	所 属	
8/9	英語の授業、さよならパーティー	渡辺 優	深川国際交流協会事務局長	
8/10	アボツフォード市出発(深川市到着8/11)	武藤 優子	深川国際交流協会理事	

~ 交流団の皆さんにカナダでの思い出を綴ってもらいました。 ~



みんなに感謝

木根芙由美(深川西高校2年)

私は2週間のカナダでの日々は、決して忘れることのできないたくさんの思い出ができました。

最初の2・3日は何もかも慣れなくて、

ホームシックやフレンドシックになり、寂しくて、切なくて、帰りたくて、ぶっ壊れてしまいそうでした。

そして、パパとママはしつけが厳しく

て、四六時中怒り散らしている気がして、最初は“だいきらい”でした。でも生活にも大分慣れるにしたがって、二人とも優しいと感じるようになり、半端なく

好きになりました。(失礼しました。ごめんね。パパ、ママ。)

カナダの良いところは、どの家もすごくきれいなこと。古い家でもなぜかすごく美しく保たれていました。しかし、カナダの悪いところは食べ物。とにかく派遣団 10 名は、大分カナダの食べ物には鍛えられた気がします。

そして、旅立ちの日・・・胸がグツときたのを何回も堪えていました。しかし、いつも内気な Joshua がキラキラ星を日本語で歌ってくれた時、もう限界って感

じで涙がポツポツ落ちました。

ナンダカンダで my host family というろんな思い出ができ、私の大切な人となったのでした。ありがとう my host family。

そして2週間カナダ研修を共にした9名との思い出は語り尽くすことができないほどのものになりました。みんなで受けた英語授業、みんなで行ったキャンプ、みんなでした乗馬体験、みんなで行った水族館、みんなで発狂したウォータースライド、みんなで掘ったはまく

り・・・他、みんなという時が最高に楽しかった。まーちゃん、みき、あや、よっち、かんちゃん、さき、かつきー、はるか、しほ、ありがとう。

そして、私たちのお母さんの存在だった武藤先生、いつも誰よりもテンションの高かった渡辺さん、一緒に過ごしたシャノン先生、そして、ダン、ありがとうございました。くどいようではございますが、最後に、市長さんやその他の皆様、私たち 10 名をカナダ研修に行かせていただき、誠にありがとうございました。



初めての外国ともう 1 つの家族

渡辺 真代 (深川西高校 3 年)

この夏休みは人生で最高の経験をいたしました。なぜなら行く前にいろいろな外国での生活文化を知っておいたので、そのため楽しんで旅ができ、英会話も自信を持って話すことができたと思います。

まず、私の host family のパパ、Gray とはいつも一緒にいて、shopping や hiking やいろいろな所へ行きました。このパパは、毎食 family の食事をつくり、家事をしながら夜にお仕事を朝までしています。でも私のためにいろいろなプランを計画してくれており、とても全てにおいて楽しかったです。ママの Gail は朝から夜までお仕事をしています。そのため、全然一緒にいることができませんでした。でも最後の 4 日ぐらいは shopping や食事と一緒に行きました。また、何でも話を聞いてくれて、とても気の強いママでした。そして、娘の

Jadene は very beautiful で、同年齢なのに車も運転でき、なおかつ大学に今年入学しました。頭も良く、人柄もよく、そして日本語も学んでおり、上手でびっくりしました。一度日本に home stay で来ていて、Japanese food がおいしくて感激したということで、とてもなじみやすい方でした。お兄ちゃんの Galen は、カッコイイ。大学に通っています。夏休み中に hiking の指導者や、スーパーマーケットの点検係の part-time をしていました。毎日忙しく、話も少ししかできませんでした。あと犬が 2 匹いました。一匹は右前脚にがんを持っていて、もう一匹はよくわからない病気を持っているらしく、たまに体全体が痙攣を起こしてしまう犬でした。2 匹ともかわいく、毛もふさふさでなつっこい犬でした。

私はカナダで一番うれしかったのは、英語を通じてカナダの方々とお話をし

て、friend になれたことでした。カナダの方はとてもやさしくて smile が似合っていて、サイコーの国だと思いました。私の host family はもっともサイコーだと感じます。

メンバーの皆との行事では、まず仲が良いので、楽しんで生活や行動ができました。みんな我が身を忘れてはしゃぎまくりました。とても良かったと思います。そして皆といたことでそれぞれがうまく生活できてたんだと思います。

残念なことは、病院に行けなかったことでした。実は、外国の病院で多い病名や、体格の違いなどを見たかったのですが、できませんでした。でも、外国の人達は、食べてる人はとても体が大きいので、食生活を見直すべきだと思いました。

また機会があればカナダへ行って、host family と会いたいです。とても最高の経験でした。



2 週間の大切な思い出

加藤 未希 (深川西高校 1 年)

私は、2 週間という短期間で、すごく貴重な経験、そして思い出を作ってきました。皆で行ったソルトスプリング島でのキャンプ・・・あんなサバイバルは、これからの人生でそうそう無い事だなと感じています。あのキャンプがあったからこそ、ホームシックにならずに乗り越えられたなと思いました。

ホームステイ先のことについては、カナダに出発する前に聞いていて、私のホームステイ先はペットもいない、子ども

も大きくなって家には住んでいないという、10 人の中では一番最悪と思える所でした。だから、ホストファミリーに会うまでは、もう不安で不安で心が押しつぶされそうでした。が・・・、あっちの学校でホストマザーと出会った時の「Hi!!」と言ってくれた瞬間のママの顔を見たら、不安も半分とけて安心しました。家にはちゃんとペットもいたし、時々しか家に戻らないけど、子どもも帰ってきて良かったです。ママのお姉さ

んの Penny も遊びに来てました。でも・・・いると思っていたホストマザーはいなくて、ママと離婚してました。よく考えてみたらホストファミリーの紹介の紙にはママの名しかなかった事に気づいた・・・。そして、なんとうちのステイ先には、私以外にもう一人仙台から来てる高 2 の女の子が stay していたのでした。その時から一番最悪から一番最高へと移り変わりました。

ホストファミリーにはあまりどこに

も連れてってもらえなかったけど、近くにあるセブンオクスというところに shopping に連れていってもらいました。自分のステイ先から離れ、春香の家に2日間泊まりに行きました。そこでは、庭にある big なトランポリンを体験しました。すごく跳ねてびっくりしました。あと、春香の家族には、アグリフェアという馬や牛などがいる祭りに連れていってもらったり、遊園地に行ったりしました。カナダの花火を拝むことができ、感激でした。うちのママに彼氏がいるん

ですが、ニコル(=彼氏)と一緒に tennis をする事ができました!!カナダでも tennis ができて嬉しかったです。

私は、優しいママや気の利く Penny、気さくなニコルがいた家族で、本当に良かったです。この私のもう一つの家族たちとはいっぱい思い出が作れたと思います。他にも皆で乗馬をしたり、木の皮で作ったアクセサリーや、シャノン先生が教えてくれたカナダのゲームなどなど、いろんなことを体験しました。そして何よりカナダの文化や自然、人々に

触れあうことができ胸がいっぱいでした。

お別れする時は本当に×2(本当に)辛くて涙が止まりませんでした。ママやシャノン先生、ダンなどに出会うことができ良かったです。いつかまた絶対にカナダに・・・そしてママのもとに帰ってきたいと思います!!

10人の皆&武藤 teacher & 渡辺さんと過ごせて楽しかったです。この2週間のできごとは一生涯忘れません・・・。



カナダでの 16 日間

本間 文(深川西高校1年)

私にとって、今回のカナダでのホームステイは本当に楽しく、勉強になるものでした。毎日の英語を必要とする生活、行く前はすごく不安でした。当たり前だけど、日本では毎日日本語を使い、英語はそのうちの少ししか話していません。そんな中から「急に外国へ行き、毎日英語を使う」ということが信じられませんでした。

実際、出発当日になってもなかなか実感がわきませんでした。電子辞書はいつも持ち歩くつもりでした。わからない単語があればすぐ調べるというつもりでしたが、実際はいつもかばんの中であって、使うのは英語の授業や部屋だけでした。

ホームステイ先の家族はとてもいい人達でした。最初の日迎えに来てくれたのは、父親の Doug と母親の Karrie、その娘の Jordanna でした。7歳だというその子は、私に沢山話をしてくれました。上に2人の兄弟もいるのですが、その時はまだ祖父母の家にいるということで、私が初めてその2人に会ったのは、それ

から約1週間後、ホストファミリーたちと Lumby という街に住んでいる Doug の両親の家に行った時でした。つまりそれまでの1週間は、たった4人での生活でした。それでも、とても優しくしてくれて楽しかったです。

私が、言ってることを理解できずに変な顔をすれば、もう一度わかりやすく説明してくれたし、スーパーマーケットに行った時も、私の好きなものを1つ1つ質問してくれました。初めのうちは、夕食後リビングルーム(テレビのある部屋)で、ホストファミリーの人たちとテレビを見たり、会話をしたりすることはできませんでした。恥ずかしさもあったけど、一番の理由は、自分の英語に自信がなかったことです。それでも、Jordanna とはよく話したし、遊びました。後から会った12歳の Jesse と10歳の Shaun もとても優しく、しかもその上おもしろく私に接してくれました。どちらも男の子です。2人ともサッカーがとても得意で、家には沢山のメダルやトロフィーが飾られていました。Shaun は

私の英語の発音をほめてくれました。本場の人にほめられたのは、本当にうれしかったです。

Lumby での3日間も楽しかったです。そこでは、Jordanna たちのまたいとこにあたる Rachel (女) や Sam (男) たちと会いました。その中でも10歳である Rachel とはとても仲良くなり、別れぎわ泣いてしまったほどです。電話番号を交換したので、長く交流を続けたいです。Lumby はアボツフォードから車で4時間かかるのですが、そこはとても自然のきれいなところでした。人々もとても親切にしてくれました。本当にいい思い出です。

いろんなことがあった16日間、私は決してこの日々を忘れません。いい機会を与えてくれて本当にありがとうございました。



はまぐりの会

横山 由絵(深川東商業高校1年)

私たち10人は7月27日に日本から旅立ちました。

私は、出発する直前に忘れ物に気づき、やる気が失せてしまうところでした。

これからみんなで長い長い旅の始まりでございます。バスの中ではとてもうるさく、私は一人、少しバス酔いをして

おりました。それでもみんなはとてもにぎやかで、私も頑張ってトークに参加しました・・・が、空港に到着です。空港でこの旅1回目の、荷物を“ウィーン”と通すチェックを行いました。みんな、鳴るか鳴らないかでドキ×2です。なんと、鳴ったのは10人のうち唯一の男の

子、かっきーでした。あはは。昼食をとり、千歳から成田に移動し、成田からいよいよバンクーバー国際空港に8時間くらいで着きました。

ついにカナダ!!! みんなあんまり寝てなかったから、テンションが高くて(とくに私が・・・)、アホみたく騒い

でいました。黄色いスクールバスが迎えに来てくれました。もう何を見ても珍しく感じるし、とてもワクワクした気持ちでバスに乗り、アボツフォードに向かいました。

学校に着くと、みんなのホームステイ先のパパ、ママ、子どもがそれぞれ迎えに来てくれていました。すぐみんなとはなれて、ホームステイ先に行くのはとても不安がいっぱいでした。いきなり英語だし、わかることもわからなくなって、もう頭の中がぐちゃぐちゃでした。お家に着くと私の部屋が用意されており、プレゼントとお花が机の上に置かれていました。とても感動。

私のホームステイ先は、パパとママと18オオの男の子と16オオの男の子と、14オオの女の子でした。ホストファミリーはみんなやさしくてかわいいし、かっこいい人達です。

これから英語の会話が日常になるのがとても不安で、どうしたらいいのかからなくてとまどうことがたくさんありました。

カナダについて2日目の日、私は朝ご

はんにはわけのわからないものを食べさせられて、初めての英語の授業に具合が悪くなり、ちょっとしか出られませんでしたが、ママがその日のうちに買い物に連れて行ってきて、「自分の好きなものをかごの中に入れてなさい。」と言ってくれました。それから嫌いなものが出た時も、食べられないと言えるようになって良かったです。

けっこう、みんなとキャンプに行ったりしたので1週間が過ぎるのがとてもはやく感じました、あと1週間しかないということで、たくさんやりたいことができました。1週間たって、やっと英語も理解できるようになりました。

ホストファミリーと過ごす日は、最初の1回目はちょっときつかったけど、プールに行ったりしました。3日間ファミリーと過ごす日はとても不安だったけど、花火を見に行ったり、ショッピングに行ったり、日本料理を作ってあげたりしました。みんなおいしいと言ってきて、肉じゃがが人気でした。But、なぜか一番上のお兄ちゃんだけあまり食べてくれませんでした。けっこう文化の違

いとかもあったし(食事の前のお祈りとか)、日本との違いもたくさん見られました。

だけど、行く前に美容室に行こう!!と気合いも入れてたのに、行くひまもなく、あわただしく終わってしまいました。だけど、ふーちゃん(団長)は3日間会わない間に髪を切っていました。いいなあ。

もう、たくさんたくさん楽しんだ2週間もあっという間に終わっちゃって、ずーっとカナダにいたいくらいでした。っていうか、今にでも戻りたいですね。最後のお別れはけっこうあつげなかったから、またすぐに会えるような気がしました。

帰りはとても長いけど、早く日本に着いた気がした。千歳から深川に帰るバスの中は、みんな寝る計画だったけど、とても盛り上がりすぎてしまい、運転手さんに注意されました。ごめんなさい。

私の長い旅はこうして終わりをとげました。そして、私たちにしかわからない「はまぐりの会」というものを名付けました。



柏倉加奈のビューティフルライフ

柏倉 加奈 (深川東商業高校1年)

私の場合・・・朝よっち(横山由恵)と大きなスーツケースを持ち、ドキドキワクワクしながら市役所へ向かった・・・。私はちょっとまだ早いかなあ、と思っていたのに、もうそこにはみんなの姿が!! 私たちが来る10分前にはすでにスタンバイしていた。みんなも私以上にドキドキワクワクしてるんだなあと思いながらバスに乗り込み、みんなあまり悲しくないのか、笑顔で手を振っていた。バスの中はけっこう盛り上がりすぎて、アツという間に空港についたのです。

飛行機の中では、みんな音楽を聴いたり、寝てたりしていたので、静かだった。この後すぐ成田空港を出発してカナダへ!! でも飛行機の中は本当に長かった。せまくて、寝ることもあまりできなくて・・・。とか言いつつ、私は熟睡していた・・・。カナダに着いて、飛行機を出る頃、前の方にファーストクラスの席が!! 私とカッキー(柿嶋恵一郎)は、ちょっと興奮していた。なんて

寝やすそうな席なのかしら・・・。とか思いつつ飛行機を降りて、カナダの空港へ。成田もすごかったけど、カナダの空港は本当にとてつもなくすごかった!! 滝とかあった!! でも、まだ自分がカナダに来たなんて実感なくて、カナダの町をキョロキョロしていた。

スクールバスで学校に向かい、ホストファミリーとの対面が楽しみで、バスの中はその話でもちきりだった。学校へ着いて、ホストファミリーと対面して、私のホストファミリーは、若くてきれいなママだった!! 背も大きくて、本当にモデルみたいだった。私を笑顔で受け入れてくれて、本当になじみやすく良かった。家にはコーナーという5歳の男の子がいて、その子がお人形みたいにかわいく、とても仲良しになりました。パパも仕事から帰って来て、私のことを本当に優しく受け入れてくれて、とても安心しました。

毎日がとても楽しくて、3日目くらいに待ちに待ってたキャンプに行きまし

た。みんなと3日間過ごして、みんなのことをよく知って、より仲良くなって、すごい深い仲になったような気がする。キャンプでは、一人すごく仲良くなった人がいて(ダン)、すごい、いい思い出になった。このキャンプが終わってほしくなくて、最後の日は本当に悲しかった。家に着いて、その日は疲れたせいか早くに寝た。キャンプが終わってからは、毎日がすごく早くて、一日一日が本当に早く過ぎてしまった。

そして、3連休に入る時、私はアメリカにキャンプをしに行きました。3連休はみんないろいろあったみたいだけど、みんなそれぞれ楽しめたんじゃないかなあ、と思った。私はこのキャンプで友達がたくさんできた。みんな本当にいい人達ばかりで、ちょっと感動した。カナダに戻る時、ちょっと涙が出そうになった。みんなにまた絶対会いに来るって言ったら、みんなの目にも涙が・・・。でも最後は笑顔でさよならを言った。帰りの車の中でちょっぴり泣いた・・・。

ホストファミリーには涙を見せたくなくて、その日はひそかに部屋で泣いた。次の日、学校で、さよならパーティーの時、私たちの発表を見て、ちょっと感動してくれてるっぽかった。シャノン先生が私たちに賞状をくれた時、なんか急に悲しくなった。そこは、涙をこらえた。

私が日本に帰る時、私は朝早くから起きてしまった。このふとんで寝るのも最後だと思いながら寝ると、全然眠れなくて、また涙が出てきた。パパも仕事の時間が来て、さよならを言う時、いつも陽気でおもしろいパパが涙を目に浮か

べていた。急なことで、何も言えなかったけど、きっと私の気持ちはパパに伝わってたと思う。部屋でちょっと泣いてから、写真をいっぱいとった。コナーは今日帰ることを知らなかったのか、何があったのかわからない状況で、私の行動を不思議そうに見ていた。

家を出る時、コナーがずっと、ずっと手を振ってくれた。見えなくなるまでずっと手を振ってくれた。私は涙が止まらなくてずっと泣いていた。学校について、みんなも泣き疲れた顔をしていた。ちょっとみんなと話をしていたらママが来

て、もう仕事に行かなきゃいけないって……。その瞬間涙があふれて、たくさんたくさん泣いた。

飛行機に乗って、カッキーとちょっと語った。成田に着いて、私は疲れて寝てたらず着いて、帰りのバスは、行きよりみんなテンションが高くて、写真を撮りまくった。さすが！！まだまだ若いな！！って思った。またカナダに絶対行きたいと思う。今度は新婚旅行で！！

楽しかったカ・ナ・ダ

川合 沙季（一已中学校3年）

私にとって、このカナダへの旅は、忘れられない旅になりました。

出発の日、楽しみにしてたカナダへの期待と、ちゃんと英会話ができるのか、ホストファミリーはどんな人達なのか、という不安で、私の気持ちはフクザツでした。でも、カナダに行くまでみんなと話したりして、その不安も少しずつほぐれました。

とうとう着いてしまったカナダですが、またまた緊張の場面、ホストファミリーとの対面です。ファミリーは、パパのFritzママのYvonne、長男Ben、長女Alicia、次女Jessica、三女Alexandra、そして末っ子のTaylorの7人家族でした。とても優しくしてくれて、私も英語を話せずおどおどしながら、実は少し安心していました。

カナダで体験したことはさまざまですが、最初に体験したことは、なんと新聞配達でした。カナダでは、News Postがない家には、新聞を玄関の前にポイッと投げておくのです。その日は雨が降っていて、新聞はベチャベチャに濡れていました。他にも、私のファミリーは本当に色々な所に連れて行ってくれました。ショッピングやアミューズメント・パー

ク、カナダから4時間も離れたVernonという所。中でも感動したのは、アメリカへ連れて行ってくれた時に見た、Old Dutch Townです。花がたくさん咲いていて、建物も美しかったです。Vernonという所では、毎日ビーチに行くぞと言われ、用意して行くのですが、到着する所はいつも山！おかげで素晴らしい滝を沢山見られました。素晴らしい虫さされも沢山の山で済みました。Vernonは日中の気温が35~38くらいなので、朝から晩まで水着でした。4泊5日で、泊まった所は、パパの兄弟の家だったので、いとこたちとも友達になれて良かったです。

ファミリーと過ごす時の他に、みんなと過ごした時間も多かったです。みんなと体験したことの中で、一番の思い出は、ビクトリア旅行、「Salt Spring Youth Hostel」のできごとです。行くときは、フェリーの中でシャチに会えました。着いてから、みんなで冒険したり、遊んだり、語ったり、友情が深まった気がしました。夜は、流れ星を見ました。本当にきれいでした。他にもこのビクトリア旅行では、カナダの色々な動物に出会いました。ナメクジ、カエル、ヒトデ、アザ

ラシ、カニ、クラゲ、そして、はまぐり！出会うたびに私は興奮していた気がします。ビクトリア旅行の最後の日に行ったバンクーバー島！ダイアナさんが泊まったというホテルが、本当にきれいで、今でも目にやきついています。そこでは、日本食屋さんに行って食事をとりました。久々に日本食を食べて、日本食の良さをあらためて実感しました。

あっという間に、さよならパーティーの日がきて、今まで頑張ってきたパフォーマンスを見せました。その夜、ホストファミリーがプレゼントをくれて、ずっとこらえていた涙があふれ出しました。「Thank you very much.」としか言えなかった私を、ママはずっと抱きしめてくれていました。別れの朝も、涙が止まりませんでした。

カナダに来て2週間、ファミリーやシャノン先生、ダン、ターナーさん、他にも色々な人にお世話になりました。この感謝の気持ちを忘れず、もっと英語を話せるようになって、カナダに戻りたいと思います。本当に楽しい旅でした。また、この仲間10人と武藤先生、渡辺さんと、一緒に行けて本当に良かったと思います。最高の夏休みでした。

短かったカナダの2週間

柿嶋恵一郎（一已中学校2年）

僕は、この2週間の滞在を通していろいろな経験をしました。

特に一番思い出に残るのは、差し歯がとれたことです。カナダに着いて初めて

の朝を迎え、山盛りのシリアルを食べて、学校に行った。そして、午前中の英語授

業が終わり、昼食を食べている時にアクシデントが発生した。それは、サンドイッチにかぶりついたら「ミシ」と差し歯が外れかけた。でも外れてないからいいやと思い、先生に言わなかった。そして、午後になると歯は急変し、ゆれが激しくなり、先生に話しておき、ホームステイ先へ帰った。その30分後、「ポロッ」と落ちて、差し歯が外れたことをホームステイ先の人に言うと、OH, NO, IT'S A TROUBLE. と言いながらいろいろな所に電話してくれた。次の日、さっそく歯医者へ行き、治療してもらい、120ドルかったが、カナダの歯医者も体験できたので良かったです。

また、滞在中楽しかったことは、みんなでソルトスプリングアイランドへ行ったことです。ソルトスプリングアイランドで寝たり、カヤックをしたりピクトリアでショッピング、しかもそこで日本料理を食べることが出来たのが最高！

ホームステイ先のおばあさんは怖かったけど、美味しい料理を作ってくれて良かった。

その家の子どもはスポーツが好きで、プールに4回ほど連れて行かれ、ゲームセンターも2回ほど連れて行かれ、しかもなぜかゲームではなく、かくれんぼをしていた。Jeread、Matman とその仲間達と一緒に飲み物を買いにセブンイレ

ブンへ1時間の道のりを経て到着した。やっとたどり着いたその後での冷たい飲み物の味は最高だった。

話は変わって、日本へ帰るその日、ホストファミリーとの別れを惜しみ、泣いている人達の中で、一人微笑んでいる自分を感じた……。そしてカナダから深川に向けて約12時間の長旅が終わり、市役所に着いてみんな帰宅した。僕は、カナダで出なかつたくしゃみを日本では連発していた。(花粉症)くしゅん！くしゅん！



16 日間の思い出

亀上 春香 (一已中学校1年)

この16日間、すごく楽しかったし、悔しかった事もあった。

Canada に着くまであまり実感がなかったけど、私のhost family に会って、初めて実感がわいてきた。

私のfamily は、すごく楽しい家族でした。特に、お父さんの“ノーマン”がスゴクおもしろくて、優しかった。お母さんの“バーバラ”もスゴク優しかったです。姉の“メリッサ”は、14 年には見えないほど大人っぽくて、美人で

した。弟の“ベン”はスゴクかわいい。一番しゃべったと思う。初めて会った時も、手をつないでくれて、感激した。

すごく楽しかったけど、悔しかったことが2つある。1つは、ある日、夕食を食べてる時、みんなおしゃべりしながら笑ってるのに、話がわからず、チョット寂しかった。あと、もう1つは、最後の日に、皆に、ちゃんと「サヨナラ」したかったけど、できなかった事です。悔しかった……。ここで、自分的に学んだ

事、積極的になる事！

みんなで行ったキャンプは、スゴク楽しかった。何より、ナメクジにはビックリでした。カヤックも、最初はコワかったけど、スゴク楽しかった。何より、一瞬だけど、野生のシャチを見られた事に感激でした。

とにかく、全部楽しかったです。また、行きたいです！



優しくしてくれたホストファミリー

島影 志保 (深川中学校1年)

私のホストファミリーは、ブラッド(父)、レズリー(母)、トラビス(兄)、そして私とともに仲が良かったクリスティーの、4人家族でした。

レズリーは、とても楽しくて、私にとても優しくしてくれました。レズリーが言った言葉が、何もわからなかったので、レズリーは、辞書を買ってくれて、私ができるまで、一生懸命教えてくれました。

ブラッドは、トラックの運転手なので、毎日のように家にいなくて、話があまりできなかったのも、とても残念です。で

も、週末には、クリスティーと、トラビスの4人で、映画館とマクドナルドに連れて行ってもらいました。

トラビスは、私がお家にいる時は、必ず家にいてくれて、私がおひまそうにしていると「何か食べる？」とか「映画を見る？」など、いろいろ心配してくれました。

クリスティーは、とても楽しい女の子でした。クリスティーとは、毎日のように、トランポリンや、私がおみやげに持っていった紙ふうせんなどで遊んでいました。クリスティーは、とてもかわいい女の子で、優しい女の子でもありまし

た。私は初め、カナダの食べ物食べられなくて、「食べられない。」と言うと、必ず「大丈夫？」と心配してくれました。帰る頃、やっとカナダの食べ物に慣れました。

カナダに行って本当に良かった。そして、とても楽しかった。それは、ホストファミリーの人と、先生方と、一緒に行った9人の人達のおかげです。本当に、どうもありがとう！！



ここからは、2000 地球環境米米フォーラム in ぶかがわ 稲刈りフェスティバルの交流について掲載します！



米米フォーラム・稲刈りフェスティバル

取材担当：寺下良一（広報部会広報編集委員）

米は日本の食文化の原点。その「米づくり」を通して、世界の食糧問題や環境問題、そのための国際協力を考えよう、と開催されたのが「2000 地球環境米米フォーラム in ぶかがわ」。9月23、24日の両日春の田植えフェスティバルに続き、世界45カ国の駐日大使館とその家族88人が深川市を訪れ、秋の稲刈りフェスティバルが行われた。

私は春の田植えフェスティバルの際に、チェコ駐日大使のヨセフ・ハブラムさんのお世話役（英語も話せずお世話役は名ばかりであったが・・・）担当。その様子の一部は、前回発行の同広報誌で紹介させていただいた。

「秋の稲刈りフェスティバルにもぜひ参加したい。できれば妻と一緒に・・・」と話していたヨセフ・ハブラムさん。ところが、参加取りまとめの期限が過ぎても「出席」の返事が無い。とても忙しい日常と聞いていたので、やはりそうかと、なかばあきらめの気持ちであった。秋の再会を楽しみにしていたホストファミリーである野原一幸さん（一巳町昇保）の家族は残念がっているだろうな、と言っていた矢先、市の担当窓口へチェコ大使館から連絡が入った。どうやら大使は、チェコのプラハに戻っており、大使館を留守にしていたらしい。日本の大使館に戻るや「秋の再会を約束してきた。妻も連れて参加する」というもの。この返事にびっくりするやらうれしいやら。ヨセフ・ハブラムさんの笑顔が目の前に浮かんできた。春の田植えが終わり東京に戻る際、ホストファミリーである野原さんの奥さん美恵子さんの肩を引き寄せ、頼りずりしながら別れを惜しんでいた。早速受け入れの体制を再確認した。

到着予定が少し遅れていた。河野市長をはじめホストファミリーや関係者が揃って待ち受ける中央公民館は準備万端ととのっている。そば打ち体験の会場でもある。今か今かと待ち構える正面玄関に大型バスがゆっくりと横付けされた。窓際前列から2番目、ニコリと笑うヨセフ・ハブラムさんの顔が見えた。ホストファミリーの野原さんを見つけて手を振っている。その横で同じように笑顔で手を振っているご婦人の姿もあった。奥さんのイワナさんである。

「Good see you again!」「ようこそ深川に・・・」

大使ご夫妻も野原さんご夫妻もはち切れんばかりの笑顔である。

「そばを知ってますか?」「もちろん知っています。日本食はとても好きです。そばも大好き」それでも、自分で作ることから始めるのは初めてのこと。めん棒でそば粉の固まりを伸ばす手つき、包丁で細く刻む手つき、いずれも慣れたもの。やはり奥さんのクッキングに通じる手さばきは万国共通なのか。実に手際よくこなす。なにやらご主人に注文をつけているらしい。ご主人の包丁裁きがいまいちなのだ。チェコ

語でのやりとりなので、通訳も分からない。「貴方って不器用なのね。こうするのよ」。案外こんなところであろう、というのが周囲の見方。どこの国の奥さんもお強いのかも。終始ニコニコ、ガヤガヤの中で出来上がったソバ。意外にうまくできるものだ。「どうだこの出来ばえは」周囲の出来ばえを横目で見ながら、みんな誇らしげ。

さっそくゆでて試食会。ゆでると以外にも太さのばらつきが目につく。いかにも手作りのソバ。それでも「オイシイ。デリーシャス」。みんなで食べれば味も格別。

長まき寿司づくりにも挑戦。「たっぷり具を入れて、ギュッと締める。みんなで協力しないと失敗しますよ」。見事に出来上がった長まき寿司を、高だかと掲げてご満悦のイワナさん。この後、会場の皆さんのお腹の中に。

次の日はいよいよ稲刈り。ヨセフ・ハブラムさんが春に植えた苗が見事に育っている様子を見て、イワナ夫人も感慨ぶかけ。「鎌でケガをしないように・・・」。ホストファミリーの野原さんの作業光景を見ながら見よう見真似で実践開始。初めは、稲わらの中程を掴むので、どうしても株のほうバラけてしまう。一束になる頃には株を揃え直してから束ねなければならない。それでも少しづつ良くなっていった。手つきもよくなっていった。春の田植えは雨にもかかわらず、素足になると率先して水田に入った。黙々と苗を植える姿がそこにあった。稲刈りも積極的。段々と慣れてきた。とうとう奥さんと一緒に参加した小学生の指導を始めた。後半には、わらで束ねることにチャレンジ。これはさすがに難しい。「そろえた稲の株側に立って、結束用のわらの株のほうを右手に持って上から被せるように・・・」。それでもヨセフさんは自己流で何とか束ねることに成功。あまり力が入るので後で「手が痛い」などと言いつつではと心配になったほど。

刈り取った稲は全員ではさしかけ無事終了。最後は、落穂拾い。「大事に育てた稲だから、粗末にははいけな」と、野原さんに「米作りの精神」を説いていただき、収穫に感謝しながら記念写真をパチリ。

この後、深川市の農産物を中心にした「焼肉パーティー」。そば打ち、稲刈りと2日間の体験を語り合いながら和やかに親睦を深め合った。ヨセフ・ハブラムさんにとって母国チェコの情勢が必ずしも安心できない状況下で、安らぎのひと時となればと願わずにはいられない気持ちであった。

別れ際、ホストファミリーの野原さんの手を握りながら「素晴らしいおばあちゃんによろしく。いつかどこかでお会いできることを祈ってます」と言って帰途のバスに乗り込んでいった。お元気で、ヨセフ・ハブラムさんご夫妻。

ここからは、ホストファミリーとなられた・々の・・・です！



コミュニケーションはジェスチャーで！

横内 慶子（深川町）

外国の人がわが家に泊まりに来る。どうしよう。どんなおもてなしをしたら良いのだろう。食べ物は何？言葉は何？と、不安な日がやってきました。我が家はザンビアの参事官ご夫婦が宿泊しました。生活習慣も違い戸惑いで始まった一日でした。まず言葉からです。私たち夫婦は、知っている単語を並べ意思を伝えます。子供達は（高校生二人）学校で教わった文法を使い、文を組み立て、会話をしようとしています。時間が掛かります。

母は手や体を大きく振りジェスチャーで、それぞれ会話の手段が違います。一番通じたのが海外経験のある母のジェスチャーでした。言葉がなくてもジェスチャーや単語を並べるだけでコミュニケーションがとれ、当初心配していた不安も飛びやかな日でした。秋には子供達を連れて家族で来てくれました。

横内家も国際人の仲間入りをした気分です。

このような企画をして下さった方に感謝とお礼を申し上げます。



二人のマリンさん

太田 好美（一已町）

今回「2000 地球環境米米フォーラム in ふかがわ」春の田植えフェスティバルに続き、秋の稲刈りフェスティバルで駐日大使関係者が深川にやって来ました。

新緑の春、田植フェスティバルで我が家にはマドロスパイプがよくお似合いのルーマニア代理大使マリン・ヴァルチアさんと、とても美しいマルネリア夫人がおみえになりました。田植フェスティバルはあいにくの雨でしたが、市内の子供たちと一緒に裸足で初めての田植えとあって感激されていた様子でした。あまり言葉は通じない、わずが一晩の交流でしたが辞典を片手に和らいだ雰囲気の中で十分に心が通じ合えたと思います。果物が大好きなコルネリア夫人、秋にはたくさんの果物を用意することを約束してお別れしました。

実りの秋、稲刈りフェスティバル、春におみえになった代理大使マリンさんの都合がつかず三等書記官マリン・イワノフさんとクリスティーナ・イワノフ夫人、3才のミルナちゃん（ルーマニアの国旗の帽子をかぶったかわいらしいお嬢さん）がおみえになりました。

事前にルーマニア大使館のホームページでルーマニアの気候は？公用語は？歴史、ドラキュラ伯爵は実在したのか、コマネチ選手など予備知識として調べておりました。それ以上に心配してましたのが「3才のミルナちゃん」、さて何を食べさせたらいいのか、日本語が通じないと思っていましたので、不安ばかり（自分の子供の時の事をすっかり忘れておりました。）ところが、対面式でマリンさんのりゅうちょうな日本語の挨拶で安心したのは言うまでもありません。また、難しい漢字も読むことができ、驚きでした。

ミルナちゃんは生後6ヶ月で日本にクリスティーナさんと来日したそうです。お寿司が好きでおいしそうに食べていて安心しました。深川に来る前日、9月22日が満3才のお誕生日と聞き、早速ケーキで心ばかりのお祝いをして喜んでいただきました。クリスティーナさんはメロンを食べながらお店でおいしいメロンを買う時の選び方、食べごろなど興味深く聞きいってました。また、友人が加わり、おみやげのワインでジョークがとびかう楽しいひとときを過ごさせていただきました。

いよいよ、稲刈り。コンテストがあると聞きマリンさん、クリスティーナさん、子供たちと共に鎌を持って真剣に手際良く稲刈をしたり、はさがけをしていました。残念ながら賞をいただくことはできませんでしたが、収穫に汗を流し、伝統的な稲刈りをじかに体験し満足だったのではと思います。

我が家の子供達、それぞれホームステイを経験していますが、自分の家に外国人がみえるのは始めてです。祖母をはじめ私たち家族、太田家の歴史に残るすばらしい体験をさせていただきました。

マリン・ヴァルチアさん、マリン・イワノフさんとは、メール・手紙等でこれからも交流を続けて行きたいと思っています。

北海道有数の米どころ、深川のPRとともに田植え・稲刈りを通じ、人と環境が共生することの大切さを学び、たくさんのすばらしい体験をさせていただきましたことを、主催していただきました地球環境平和財団をはじめ、深川市実行委員会、また数多くの関係機関に対しまして、心から感謝とお礼を申し上げます。

ありがとうございました。ご苦勞様でした。



「2000 地球環境米米フォーラム in ぶかがわ」に参加して

小竹 啓子（音江町）

9月23・24日の2日間、春の田植えフェスティバルに引き続き、稲刈りフェスティバルに、ホストファミリーとして参加させていただき、我が家にはスイス大使館の一等書記官と婚約者が来られ、春・秋と合わせて4日間交流しました。

春の田植えフェスティバルの時は、初めての事で言葉は通じるのか、どのようなものを食べさせればよいのか不安でしたが、忙しい時期でもあり事前の準備をする間もなく当日が来たという感じでしたが、女性の書記官で日本語も少しでき、日本食が大好きという事で、刺身をつまみにお酒を飲みながら歓談をし、交流を深めました。

稲刈りフェスティバルの時は、2度目という事でお互い気楽な気持ちで交流することができ、稲刈りも子供たちを交えて楽しく終える事ができました。

春・秋とても忙しい時期ではありましたが、とても良い思い出になりました。お世話いただきました方々に感謝申し上げます。



ユーゴスラビア大使ご夫妻をお迎えして

長谷川美由紀（納内町）

今年の5月に深川市で行われた、米米フォーラムで我が家にユーゴスラビア大使ご夫妻をお迎えしました。主婦の立場としては、お食事やお泊りしていただくお部屋などいろいろと考えることも多かったのですが、考えた末いつもどおりの我が家の姿でお迎えしようということでした。私たちは、挨拶程度の英語で、大使ご夫妻は挨拶程度の日本語しか話せないとあって、話のほとんどは身振り手振りで行われ、本当はもっとお話ししたいことや、お話を伺いたいことがたくさんありましたが、十分に会話が出来ず残念に思いました。

しかしその中で、印象に残ったことがありました。私が、子供たちに話しかけているのを聞いていた奥様が「あなたの子供たちに話す日本語はとてもいいトーンをしている」と言われたことです。私は普段話し言葉でほめられたことがあり

ませんでしたので、とてもうれしく感じるとともに、日本語はとても美しい響きであることを認識することができました。また、田植えや稲刈りも真剣に取り組み、ご夫妻ともとても豊かな人間性にあふれる方だと感じることができました。たった、1泊2日の滞在ではありましたが、私たち家族にとってよい思い出となったと共に、ほんの少しですが、ユーゴスラビアという国が身近に感じられることができるようになりました。このような機会を与えていただきましたことをお礼申し上げます、私の文章を終わらせていただきます。ありがとうございました。



一番の友達

太井 倫子（多度志町）

今回、リトアニアの大使館の方を受け入れるにあたって、夫は米米フォーラムまで田植え、稲刈りが終わるのかと心配し、小学1年生の息子は「日本語、わかるのかな？緊張する」、私は、家の中の片付け、食事に頭を悩ませながら当日を迎えました。

でも春にダイさんに会い、とても上手な日本語と素敵な笑顔を見て、すっかり肩の力が抜け、友達が出来たかな！？という気持ちになりました。

秋の稲刈りのときはリナさん「日本語、少しだけ解ります。」

と恥ずかしそうに語った表情が印象に残ります。

それでも、息子は、トランプやジャンケンをして仲良くなり、次の朝「もっと泊まって行って欲しいのに...」と寂しそうでした。そして別れのときリナさんと握手をしながら「一番の友達」と言われ照れていました。また、「来年はどこの国の人がかかるの？」とすっかりはまった息子でした。

この米米フォーラムで私たち家族にとって見知らぬ国リトアニアが身近になり、大使館の方にとっても日本という国がより一層、思い出深い地になったと思っています。



インターナショナルデーの開催

上垣由紀子（広報部会広報編集委員）

「インターナショナルデー」が7月5日プラザホテル板倉で開催されました。

市内の中高生の皆さんに、楽しいトークやクイズを通して生の英語にふれ、交流の中で国際理解を深めてもらおうと企画されたこの事業も、今年で4回目をむかえました。

今回はゲストとして、拓殖短期大学を訪れたフレーザー・バレー大学教授など大学関係者とその子供達、そして近隣市町のAETの方々約10名に参加していただくことができました。

国際交流協会ふれあい部会の進行の中、共催の国際ソロプチミスト深川の方々のご協力で楽しいゲームや景品、お菓子もたくさん用意され会場は終始笑い声に溢れました。

英語での“インタビューゲーム”に始まり“ペアをさがせ”では、相手を探すのに皆、会場狭しと大騒ぎ。また、“日本の不思議当てクイズ”では外国人から見た「日本語のここがちょっと不思議だった。」というエピソードがやさしい英語で説明され、ここでしか聞けないような意外な面白い話に会

場は爆笑。フレーザー・バレー大学教授マイケル・マッコールさんの子供達の一生懸命に練習したかわいらしい日本の歌も披露され、最後はスポーツ少年団の協力も得て、ダンスタイムで終わりました。

中高生には、忙しい時期だったにもかかわらず、昨年に引き続きたくさんの参加者（約120名）があり、この事業も楽しい企画として定着してきたように思えます。

英語を通じた交流の中で国際理解を深め視野を広める機会を持つことは、自分達の生活や文化を見直すきっかけにもなるでしょう。

こうした意義のある、そして何よりも楽しい集まりが深川の子供達のために来年も続いていきますように。

担当のふれあい部会の皆さん、ご協力いただいたソロプチミストの皆さん、本当にありがとうございました。

カナダのフレーザー・バレーってなに？⑦

「アボツフォード」とあなたも私ももっと国際交流

技術者交流と産業の交流

広野 勝利

私どもは1996年9月3日、カナダ市民交流調査団として深川を出発し、一路アボツフォード市へと向いました。

カナダ市民交流調査団は拓殖大学北海道短期大学の小滝教授を団長として8名で構成し、拓大北海道短大はアボツフォード市に本部を置くフレーザーバレー大学とは友好姉妹大学として提携関係にあり、既に教授陣・学生の相互交流をしており、小滝先生のご案内のもと安心して訪問する事となりました。

私は商工会議所からの推選で、アボツフォード市の商工業を重点に視察する事を命じられ、その任務にあたる事となりました。

十数年前、日本全土においてテーマパークであり、企業誘致であり、一村一品運動でありと、どこの自治体も競って懸命の加速経済に過熱しておりました。バブルの異常さに気付くことなく舞っていたところ。バブル経済の処方箋を

見出すことなく現在は淘汰と統合を繰り返し、企業は地球の規模に拡大しながら、熾烈な競争を余儀なくされているのです。

しかし、最近では国家プロジェクトとしての情報技術（IT）は、地方経済も世界経済と同時進行し元気をつけてくれるような形に進むと思われま

す。堀知事さんが提唱している「産業クラスター構想」と河野市長さんが提唱し、具体的に実施しております「ライズランド構想」はまさしく、地域産業クラスターの根源構想でありまして、これから派生して新しい産業と技術開発に結ばればその意図は必ずや開花されるものと信じます。

アボツフォード市の産業構造は農業、林業、畜産に加え、西カナダと西アメリカの物流拠点として貨物トラック、航空輸送としてのコンテナ基地や空港をそなえております。アボツフォードでは農

産物、木材、製材、畜産物を一次産品としてのみならず、2次加工、また商品化して出荷を行っており、その為の加工機械・包装器材の生産を行い、それらの部品製造メンテナンス業務及びこれら機械産業の高度化に向け、産業クラスターのインフラとリンクし体系的に構築されております。

深川市が目標としている産業構造は、アボツフォード市に存在すると考えます。また、これに今日の情報技術革新が付加されることにより、高度産業の創出がなされ、市民のそれぞれの役割においても、より一層の高い見識と情熱がそがれると存じます。

私ども国際交流協会の中でも、深川市経済界の各産業にわたってアボツフォード市との情報交流・技術者交流、さらにこれらに伴う物流の交流に発展していけば、両市にとってあるべき姿に向けて実りあるものと考えます。